

アバール語の多少を表す 形容詞的および副詞的な表現について*

山田 久 就

1. はじめに

本稿では、アバール語における「たくさんの」、「少しの」を意味し、名詞を修飾する表現、また、「たくさん」、「少し」を意味し、動詞を修飾する表現について意味的、形態的、統語的な観点から議論していく。アバール語の「たくさんの」、「たくさん」を表す表現は形態素 semer そのものか、その形態素に何らかの接辞がついた形式であり、「少しの」、「少し」を表す表現は形態素 dah そのものか、その形態素に何らかの接辞がついた形式である。

アバール語は主にロシア連邦ダゲスタン共和国で話されていて、ナフ・ダゲスタン諸語（あるいは語族）に属する。

* 標準アバール語の文語で用いられている文字はキリル文字であるが、ラテン文字へ次のような転写を行って、標準アバール語を表記している。a=a, б=b, в=w, г=g, гъ=g̃, гь=h, гI=ç, д=d, е=e, ж=ž, з=z, и=i, й=j, к=k, къ=q̣, кь=q̣', кI=k', л=l, ль=ḷ, м=m, н=n, о=o, п=p, р=r, с=s, т=t, тI=t', у=u, ф=f, х=x, хь=q̣, хь=ç, xI=h, ц=c, цI=c', ч=ç, чI=ç', ш=š, щ=šš, э=è, ю=ju, я=ja, ъ='。アバール語で使われているキリル文字のラテン文字への転写には標準的な方法が確立しておらず、ここでの転写法は筆者独自のものであることをお断りしておく。本稿で用いる省略記号は次の通りである。ABS: absolutive(絶対格); COND: conditional(条件法); DAT: dative(与格); EM: emotional particle(感嘆詞); EMP: emphatic particle(強調); ERG: ergative(能格); F: feminine(女性); GEN: genitive(属格); GNL: general(一般時制); INF: infinitive(不定形); LAT: lative(向格); LOC: locative(位格); M: masculine(男性); NE: non-evidential(間接的な情報); NH: non-human(非人間); PL: plural(複数); PRS: present(現在時制); PC: perfect converb(完了副動詞); PRT: participle(形容詞的分詞); PST: past(過去時制); QUO: quotation marker(引用標識)。アバール語の位格、向格はそれぞれ5系列から成っていて、位格、向格の後ろの数字は、その系列を表す。

品詞分類において、名詞を修飾する形式は、一般的に、形容詞と呼ばれ、動詞を修飾する形式は、一般的に、副詞と呼ばれる。日本語の“たぐさんの”，“少しの” および他言語で「たぐさんの」, 「少しの」を意味し、名詞を修飾する形式は、名詞を修飾するという点で、形容詞に近いし、日本語の“たぐさん”，“少し” および他言語で「たぐさん」, 「少し」を意味し、動詞を修飾する形式は、動詞を修飾するという点で、副詞に近い。しかし、「たぐさんの」, 「少しの」を意味し、名詞を修飾する形式, 「たぐさん」, 「少し」を意味し、動詞を修飾する形式は、言語によっては、一般的な形容詞、副詞と形態的に違っている。これはアバール語にも当てはまる。そこで、最初に、アバール語の一般的な形容詞と副詞の形態的な特徴について述べた後で、「たぐさんの」, 「少しの」, 「たぐさん」, 「少し」を表すアバール語の形式を一般的な形容詞、副詞と比較しながら、議論を進めていく。

2. 形容詞と副詞

日本語の“美しい 踊り”の“美しい”や英語の“a beautiful dance”の“beautiful”のように名詞を修飾する形式は形容詞と呼ばれ、日本語の“美しく 踊る”の“美しく”や英語の“to dance beautifully”の“beautifully”のように動詞を修飾する形式は副詞と呼ばれる。日本語の“美しい(utsukushi-i)”と“美しく(utsukushi-ku)”は、ともに、utsukushiという形態素を含んでいて、それに-iがついた形式が形容詞として使われ、-kuがついた形式が副詞として使われる。英語のbeautifulとbeautifullyもbeautifulという形態素を共有しているが、beautifulに何もつけない形式が形容詞として使われ、-lyがついた形式が副詞として使われる。日本語には、-iをつけると形容詞として使うことができ、-kuをつけると副詞として使うことができる形態素がたぐさんあるし、英語には、何もつけないで形容詞として使うことができ、-lyをつけると副詞として使うことができる形態素がたぐさんある。本稿では、形容詞として使われる形式と副詞として使われる形式が一

つの形態素を共有する場合、その形態素を便宜的にベースと呼ぶことにし、ベースはこの意味でしか使わないことにする。理論的に考えると、(i)ベースにいかなる接辞もつかないで形容詞としても副詞としても同じ形式で使われる、(ii)ベースにいかなる接辞もつかないで形容詞として使われ、なんらかの一つのあるいは複数個の接辞がついて副詞として使われる、(iii)ベースにいかなる接辞もつかないで副詞として使われ、なんらかの一つのあるいは複数個の接辞がついて形容詞として使われる、(iv)ベースに同じ一つのあるいは同じ組み合わせの複数個の接辞がついて形容詞としても副詞としても同じ形式で使われる、(v)ベースに違う一つのあるいは違う組み合わせの複数個の接辞がついて形容詞としてあるいは副詞として別々の形式で使われるという可能性がある。日本語の“美しい(utsukushi-i)”と“美しく(utsukushi-ku)”は(v)であり、英語のbeautifulとbeautifullyは(ii)である。

日本語や英語では、形容詞として使われる形式は修飾される名詞に依存していないが、修飾される名詞の性、数、格などに依存して、違う接辞がベースにつく言語もある。ロシア語で「美しく」を表す形式は常にベースとなるkrasivに-oがついた形式であるが、「美しい」を表す形式は修飾する名詞の性、数、格に従って、ベースとなるkrasivに違う接辞がついている。たとえば、男性名詞の単数主格形を修飾する時の形式はkrasiv-yjであるが、女性名詞の単数主格形を修飾する時の形式はkrasiv-ajaであり、別々の接尾辞がついている。

アバール語の「美しい」を表す名詞を修飾する形式と「美しく」を表す動詞を修飾する形式は上の(iii)である。bercinというベースをそのまま使って、「美しく」を表すことができる。一方、「美しい」を表し名詞を修飾する形式は修飾される名詞の性、数に従って、別々の形式となる。修飾される名詞が非人間の単数形、人間の男性の単数形、人間の女性の単数形、全ての名詞の複数形である場合、それぞれ、bercin-a-b, bercin-a-w, bercin-a-j, bercin-a-lとなる。-b, -w, -j, -lの交代は結び付く二つの単語の間の一一致の一種であり、-b, -w, -j, -lをまとめて-AM (agreement markerの略語)と表

記することにする。すなわち, *bercin-a-b*, *bercin-a-w*, *bercin-a-j*, *bercin-a-l*をまとめて*bercin-a-AM*と表記する。アバール語で形容詞と副詞がベースを共有する場合, 大多数の組み合わせにおいて, *bercin*の場合と同様に, ベースに何もつけない形式が副詞として使われ, ベースに*-a-b*, *-a-w*, *-a-j*, *-a-l*がついた形式がそれぞれ非人間の単数形, 人間の男性の単数形, 人間の女性の単数形, 全ての名詞の複数形を修飾する形容詞として使われる。ロシア語の形容詞では, 修飾される名詞の格が違うとベースに違う接辞がつくが, アバール語の形容詞では修飾される名詞の格が何であれベースにつく接辞は同じである。

形容詞には, 名詞を修飾する用法の他に, “この 花は 美しい” のような文で使われる。この形容詞の用法を述語としての用法と呼ぶことにする。日本語の形容詞は単独で述語として使われるが, アバール語の形容詞は「ある, いる」を表す動詞を補助動詞として使って述語として機能する。「Aは美しい」における「美しい」を表す形容詞は名詞を修飾する用法の形式と同じ形式*bercin-a-AM*が使われる。「Aは 美しい」のAは絶対格形をしているが, Aが非人間の単数形, 人間の男性の単数形, 人間の女性の単数形, 全ての名詞の複数形である場合, それぞれ, *bercin-a-b*, *bercin-a-w*, *bercin-a-j*, *bercin-a-l*となる。これらの形式と並んで, ベースである*bercin*にいかなる接辞もつかない形式も「Aは 美しい」における「美しい」を表すのに使われることがある。*bercin*以外でも多くの形態素が, *-a-AM*がついた形式とともに, いかなる接辞もついていない形式が形容詞の述語としての用法で使われる。

アバール語の形容詞は修飾される名詞なしでも現れることができ, 絶対格の名詞が現れる位置では, 名詞を修飾する時の形式となる。*bercin-a-b*, *bercin-a-w*, *bercin-a-j*, *bercin-a-l*は, それぞれ, 「美しいもの」, 「美しい男」, 「美しい女」, 「美しい複数のもの, 美しい複数の人」を意味する。絶対格以外の格の名詞が現れる位置では, 多くの名詞と共通の格標識(接尾辞)が*-AM*の代わりに現れる。格標識は, (i)非人間あるいは人間の女性の単数形,

(ii)人間の男性の単数形, (iii)複数形の3区分からなり, 能格では, -t, -s, -zである。たとえば, bercin-a-t, bercin-a-s, bercin-a-zとなる。

3. 多数, 多量, 少数, 少量を表す形式

日本語において, 名詞を修飾し, 多数, 多量を表す形式は, “たкусんの(takusan-no)”であり, 少数, 少量を表す形式は, “少しの(sukoshi-no)”である。また, 日本語で, 動詞を修飾し, 多量を表す形式は, “たкусん(takusan)”であり, 少量を表す形式は, “少し(sukoshi)”である。形容詞的に使われる“たкусんの(takusan-no)”と副詞的に使われる“たкусん(takusan)”の形態的な関係は, “美しい(utsukushi-i)”と“美しく(utsukushi-ku)”に代表される一般的に形容詞と呼ばれる形式と一般的に副詞と呼ばれる形式の形態的な対応関係と違っている。英語やロシア語でも, 「たкусんの」, 「少しの」を表す名詞を修飾する形式と「たкусん」, 「少し」を表し動詞を修飾する形式の形態的な対応関係は, 一般的に形容詞と呼ばれる形式と一般的に副詞と呼ばれる形式の形態的な対応関係と違っている。

この節では, アバール語の多数, 多量, 少数, 少量を表し, 形容詞的にあるいは副詞的に使われる形式を, 一般的に形容詞および副詞と呼ばれる形式と比較しながら, 紹介していく¹。

3. 1 名詞を修飾している時

(1), (2)のように, ҫemerに-a-AMが³ついたҫemer-a-AMが「たкусんの」という意味で使われる (Madieva, 1981: 139, Madieva, 2012: 230)。

¹ 本稿のデータは標準アバール語で書かれた本, 雑誌, 新聞からのテキストである。これまでの研究で行ったアバール語母語話者に対する質問形式の調査には本稿の内容の一部も含まれているが, 本稿を書くためには, 母語話者に対する調査は行っていない。

- (1) Pat'imat Sult'anowna-ı Ğemera-l sual-al ı'-una
 Patimat Sultanovna-ERG たくさんの-PL 質問-PL.ABS 与える-PST
 dokladčik-ase,
 報告者-DAT
 「Patimat Sultanovnaは報告者にたくさんの質問をした。」 [MP2-K, 134]
- (2) Ğemera-b mex-ał pikrabazda w-uk'-ana hew.
 たくさんの-NH 時間-ERG 考え.PLLOC1 M-いる-PST その男.ABS
 「長い間、彼は考え中であった。」 [HH2-I, 88]

Ğemer-a-AMとならんで、いかなる接辞もついていないĞemerも(3)、(4)のように「たくさんの」という意味で使われる (Sulejmanova, 1980: 134)。

- (3) Duca die Ğemer sual-al ı'-una,
 あなた.ERG 私.DAT たくさんの 質問-PL.ABS 与える-PST
 「あなたは私にたくさんの質問をした。」 [ShM2-K, 205]
- (4) Niž Ğemer mex-ał ğ'-ana henir,
 私達.ABS たくさんの 時間-ERG 止まる-PST ここに
 「私たちは長い間ここにいた。」 [DJu-A, 380]

一方、「少しの」は、(5)、(6)のように、dahに-a-AMがついたdah-a-AMを使って表す (Madieva, 1981: 139, Madieva, 2012: 230)。

- (5) xut'-un r-ugo c'aq' daha-l Ğadam-al,
 残る-PC PL-いる.PRS とともて 少しの-PL 人-PL.ABS
 「とても少しの人が残っている。」 [MP2-K, 182]
- (6) Uriža daha-b mex-ał łalq-ana;
 Urizha.ABS 少しの-NH 時間-ERG 止まる-PL
 「Urizhaは少しの間止まっていた。」 [GG-G, 104]

副詞とベースを共有する形容詞は、一般的に、-a-AMで終わるので、 ζ emer-a-AM, dah-a-AMは形態的には形容詞である。 ζ emerは、ベースである形態素そのもので、後で述べるように、「たくさん」という意味で動詞を修飾する場合にも使われる。一方、dah-a-AMから-a-AMを取るとdahという形式になるが、後で述べるように、dahは「少し」という意味で動詞を修飾する場合に使われる。しかし、 ζ emerと違ってdahは、私が調べた限りでは、名詞を修飾する場合には使われていない²。

3. 2 動詞を修飾している時

アバール語では、「たくさん」という意味で動詞を修飾する場合、 ζ emerを使うことができる。(7)がその例である。

- (7) Dun ζ olilasda ζ emer k'ała-na heful raq-ał,
私.ABS 若い男.LOC1 たくさん 話す-PST それ.GEN 関連-ERG
「私は若い男性にそれについてたくさん話した。」 [ShG-K, 349]

ζ emerは、「たくさん」からの比喩的な意味であると思われるが、(8)のように、「頻繁に」という意味でも使われる (Saidov, 1967:197)。

- (8) Haw k'odoqe ζ emer wač'-unaan,
この男.ABS 祖母.LAT2 頻繁に 来る-PST
「この男性は祖母のところに頻繁に来た。」 [SulM-L, 27]

「頻繁に」を表す副詞にはrizもあるが、「頻繁に」という意味を表すのに、rizよりも ζ emerの方がよく使われる³。

² しかし、Sulejmanova (1980: 134) は、dahが名詞を修飾することができるかと述べている。ただし、例は書かれていない。

³ rizは「草が密に茂っている」などを表す「密に」も意味するが、この意味から

Ɔemerとならんで, Ɔemer-a-AMも「たくさん」という意味で使われる。(9), (10)に例を示す。

- (9) Dun Ɔemera-w k'ala-le-w w-ug-in,
私.ABS たくさん-M 話す-PRT.GNL-M M-いる.PRS-QUO
「私がたくさん話をしている。」[RG-G, 162]
- (10) Ɔemera-j Ɔod-ana dun.
たくさん-F 泣く-PST 私.ABS
「私はたくさん泣いた。」[HH1-R, 11]

Ɔemer-a-AMは, Ɔemerと同様に, 「頻繁に」という意味でも使われる。(11)がその例である。

- (11) Ɔumarħazi Ɔemera-w w-ač'-unaan Muħamad-iqe.
Umarhazhi.ABS 頻繁に-M M-来る-PST Muħamad-LAT2
「UmarhazhiはMuħamadのところに頻繁に来ていた。」[BZ-T, 43]

Ɔemer-a-AMには, -b, -w, -j, -lからなる一致標識が含まれている。Ɔemer-a-AMが名詞を修飾している場合には, 修飾されている名詞の性, 数に依存しているのであるが, 動詞を修飾している場合には, どうなるのであろうか。この場合, 動詞の項である絶対格名詞に依存することになる。(9), (11)では, 絶対格名詞が男性単数であり, -wとなっていて, (10)では, 女性単数であり, -jとなっている。

Ɔemer, Ɔemer-a-AMに加えて, Ɔemer-a-ɪも「たくさん」という意味で動詞を修飾するのに使われる。(12)がその例である。

「頻繁に」という意味が派生したのであろう。

- (12) Ğemerat ğwad-ize kk-an-ila hew.
 たくさん 移動する-INF しなければならない-PST-NE その男.ABS
 「彼はたくさん移動しなければならなかった。」 [ShM2-K, 14]

-a-ıとは、2節で述べたように、形容詞が修飾される名詞なしで使われる場合の非人間あるいは女性の単数能格形である。形容詞が修飾される名詞なしで使われる場合の男性の単数および複数の能格形はそれぞれ-a-s, -a-zであるが、「たくさん」を表すためには使われない。絶対格名詞が男性を表す名詞の単数形であっても何らかの名詞の複数形であっても、Ğemer-a-ıが使われる。(12)では、絶対格名詞が男性を表す代名詞の単数形である。

Ğemer, Ğemer-a-AMが「頻繁に」という意味で使われることを述べたが、Ğemer-a-ıは、私が調べたテキストの中には、「頻繁に」という意味で使われている例はない。

Ğemer, Ğemer-a-AM, Ğemer-a-ıが動詞を修飾するのに使われるが、使われる頻度は、Ğemer, Ğemer-a-AM, Ğemer-a-ıの順である。Ğemer-a-AM, Ğemer-a-ıの使用例は、Ğemerの使用例に比べてかなり少ない。

次は、「少し」を表す形式に移る。「たくさん」がĞemer, Ğemer-a-AM, Ğemer-a-ıで表されるのと並行的に、「少し」は、dah, dah-a-AM, dah-a-ıで表される。(13)がdah, (14)がdah-a-AM, (15)がdah-a-ıの例である。

- (13) Ğ'eĞeraw-in ab-uni, dah-go k'ala-le-w
 Cheeraw.ABS-QUO 言う-COND 少し-EMP 話す-PRT.GNL-M
 w-ugo.
 M-いる.PRS
 「Cheerawはといえば少しだけ話をしている。」 [ShM2-K, 203]

- (14) Q'urban daha-w ĩalq-ana.
 Kurban.ABS 少し-M 止まる-PST
 「Kurbanは少し止まっていた。」 [SulM-L, 236]

- (15) dahaḥ ɫalq-ana Gulla.
 少し 止まる-PST Gulla.ABS

「Gullaは少し止まっていた。」 [ShM1-C, 38]

Ǝemer-a-AMと同様に, dah-a-AMは, 一致標識を含んでいて, その選択は動詞の項である絶対格名詞に依存している。(14)では, 絶対格名詞が男性単数であり, -wが使われている。

「少し」を表すのに, dah, dah-a-AM, dah-a-ɫの中では, dah-a-AMが圧倒的に多く使われる。形態的な観点からdahが最もよく使われてもよさそうだが, dahはあまり使われない。

Ǝemerが「頻繁に」を意味するのによく使われることを述べたが, dahを「まれに」という意味で使うことはあるが, テキストでの使用例はあまりない。

- (16) mun c'aq' dah guronɪ roq'oe j-ač'-une-j heč'o,
 あなた.ABS とてもまれに 以外 家へ F-来る-PRT.GNL-F いない.PRS
 「あなたはとてもまれにしか家に帰っていない。」 [SurM-N, 76]

「まれに」という意味を表すするには, dahではなく, q'anaɕatがよく使われる。

dah-a-AM, dah-a-ɫが「まれに」の意味で使われている例は私が調べたテキストの中には出てこない。

3. 3 形容詞を修飾している時

動詞を修飾している形式以外, 形容詞や副詞を修飾している形式も副詞と呼ばれる。

日本語の“少し”は, “少し 大きい”のように形容詞を修飾することがある。しかし, “たくさん 大きい”という表現は日本語としてありえず, “少し 大きい”の反対は“とても 大きい”あるいは“たいへん 大きい”であるから, “少し 大きい”の“少し”は比喩的な使われ方と考えるべきで

あろう。

アバール語の「たくさん」を表す ζ emerは「とても」という意味で形容詞を修飾することがある(Sulejmanova, 1980: 161, 167-8)。(17)がその例である。

- (17) Roza-bi r-ugo ζ emer bercina-l t'uhdul,
 ばら-PL.ABS PL-ある.PRS とても 美しい-PL 花.PL.ABS
 「ばらはとても美しい花だ。」 [MP2-K, 148]

しかし、「とても」という意味で形容詞を修飾するには、 ζ emerよりも $c'aq'$ が多く使われる。

ζ emer-a-AM, ζ emer-a-lが形容詞を修飾している例は私が調べたテキストには見つからない。

一方、「少し」を表すdahが形容詞を修飾している例は、私が調べた限りでは、テキストに使われていない⁴。それに対して、dah-a-AMは、形容詞を修飾するのによく使われる(Sulejmanova: 1980: 165)。

- (18) zindir was Igorⁱ daha-w worxata-w,
 自分.GEN 息子.ABS Igor.ABS 少し-M 背が高い-M
 ččobora-w w-uk'-an-ilan.
 太っている-M M-いる-PST-QUO
 「自分の息子が少し背が高く、太っていた。」 [ShM1-C, 88]

また、daha-lも形容詞を修飾するのに使われている例がある。

⁴ Sulejmanova (1980: 161, 169) は、dahが形容詞を修飾することがあるとしている。著者はアバール語の母語話者であり、自作の例を載せている。

- (19) Respublika-jalda žaq'a ahwal-hal daha! bat'ija-b b-ug-eful-xa.
 共和国-LOC1 今日 状況.ABS 少し 違う-NH NH-ある.PRS-because-EM
 「共和国では、今日、状況は少し違うので。」[XAK, 2010/4/22]

3. 4 副詞を修飾している時

Ǝemerは、動詞を修飾している副詞を修飾していることもある。「とても」という意味で使われている。(20)がその例である。

- (20) mun dolda Ǝemer-go hik' la-la.
 あなた.ABS あの女.LOC1 とても-EMP よく 知っている-GNL
 「あの女性はあなたをととてもよく知っている。」[MP1-S, 44]

「とても」という意味で副詞を修飾するのには、Ǝemerよりもc'aq'が多く使われる。

Ǝemer-a-AM, Ǝemer-a-Iが副詞を修飾している例は私が調べたテキストには見つからない。

dahが副詞を修飾している例は私が調べたテキストには見当たらない。それに対して、dah-a-AMは、動詞を修飾している副詞を修飾していることがある。

- (21) daha-w heren-go k'ala-na hesda Kamil.
 少し-M やさしく-EMP 話す-PST 彼.LOC1 Kamil.ABS
 「Kamilは彼に少しやさしく話した。」[MP1-S, 15]

dah-a-AMの一致標識は、dah-a-AMが修飾している副詞が修飾している動詞の絶対格名詞の性、数に従う。(21)では、Kamilは男性単数なので、dah-a-wとなっている。

また、dah-a-Iも動詞を修飾している副詞を修飾するのに使われている。

- (22) Dahaŋ cebe Murtazaŋali-l b-uk'-ana k'udija-b roxel.
 少し 前に Murtazaali-GEN NH-ある-PST 大きな-NH 喜び.ABS
 「少し前にMurtazaaliには大きな喜びがあった。」 [DG-D, 191]

4. まとめ

まず、アバール語では、名詞を修飾する形式と動詞を修飾する形式が形態素を共有している多くの場合、名詞を修飾するのには、語彙的な意味を持つ形態素に-a-AMをつけた形式を用い、動詞を修飾するのには、語彙的な意味を持つ形態素を単独で用いる。

「たくさんの」を意味し名詞を修飾する形式としては、一般的な形容詞と形態的に同じパターンの ζ emer-a-AMも使われるが、語彙的な意味を持つ形態素だけからなる ζ emerも使われる。一方、「少しの」を意味し名詞を修飾する形式としては、一般的な形容詞と形態的に同じパターンのdah-a-AMは使われるが、語彙的な意味を持つ形態素だけからなるdahは使われない。

「たくさん」を意味し動詞を修飾する形式としては、一般的な副詞と同様に語彙的な意味を持つ形態素だけからなる ζ emerも使われるが、形態的には形容詞である ζ emer-a-AMも使われるし、さらには、 ζ emer-a-Iも使われる。同様に、「少しの」を意味し動詞を修飾する形式としては、一般的な副詞と同様に語彙的な意味を持つ形態素だけからなるdahも使われるが、形態的には形容詞であるdah-a-AMやdah-a-Iも使われる。

さらに、 ζ emerは「とても」を表す形容詞を修飾する形式、動詞を修飾している副詞を修飾する形式としても使われるが、 ζ emer-a-AMや ζ emer-a-Iはこの目的で使われない。対照的に、「少し」を表す形容詞や動詞を修飾している副詞を修飾する形式としては、dahは使われないのに、dah-a-AMやdah-a-Iはこの目的で使われる。

ζ emer-a-AMやdah-a-AMは一致標識を含んでいる。名詞を修飾している場合は、その名詞の性、数に従って、四つの形式で変化する。 ζ emer-a-AM

やdah-a-AMが動詞を修飾している場合、動詞を修飾している副詞を修飾している場合には、動詞の項である絶対格名詞の性、数に従って、変化する。

例文で使ったアバール語の文献とのその略号

- [BZ-T] Batirowa, Zalmu, T'erçunareb c'wa. Makhachkala: Èpokha, 2006.
 [DJu-A] Dadaew, Jusup, Añul goh — dir rek'el buhi. Makhachkala: Jupiter, 1998.
 [DG-D] Daganow, Şabdula, Şadamal — dir c'wabi. Makhachkala, 1997.
 [GG-G] Ğalbac'ow, Ğazimuhamad, Ganç'al. Makhachkala: Dagestanskoe knizhnoe izdatel'stvo, 1994.
 [HH1-R] Hażiew, Husen, Ro'ul teh. Makhachkala: Daguchpedgiz, 1992.
 [HH2-I] Hażiew, Husen, Imam Hamzat. Makhachkala, 1995.
 [MP1-S] Murtazaliewa, Pat'imat, Surat. Makhachkala: Daguchpedgiz, 1990.
 [MP2-K] Murtazaliewa, Pat'imat, Kulakasul jas. Makhachkala: Dagestanskoe knizhnoe izdatel'stvo, 1995.
 [RG-G] Rasulow, Ğarip, Şadamalgi raŞadalgi. Makhachkala: Dagestanskoe knizhnoe izdatel'stvo, 1996.
 [ShG-K] Şaxtamanow, Ğumar-Haži, Q'aral Ğor. Makhachkala: Dagestanskoe knizhnoe izdatel'stvo, 1994.
 [ShM1-C] Şamxalow, Muhamad, C'udul was. Makhachkala: Daguchpedgiz, 1982.
 [ShM2-K] Şamxalow, Muhamad, Q'isabi wa xarbal. Makhachkala, 2002.
 [SulM-L] Sulimanow, Muhamad, Labgo q'isa. Makhachkala: Dagestanskoe knizhnoe izdatel'stvo, 1958.
 [SurM-N] Surxaew, Musalaw, Nux bit'agi. Makhachkala: Daguchpedgiz, 1990.
 [XAK] Haq'iq'at (新聞). Makhachkala.

参考文献

- Madieva, G. I. (1981) *Morfologija avarskogo literaturnogo jazyka*. Makhachkala: Daguchpedgiz.
 Madieva, G. I. (2012) "Molfologija" in Alekseev, M.I., et al. (2012) *Sovremennyj avarskij jazyk*. Makhachkala: Aleph. 149-245.
 Saidov, Magomedsajid (1967) *Avarsko-russkij slovar'*. Moscow: Sovetskaja Èntsiklopedija.
 Sulejmanova, S. K. (1980) *Imennye slovosochetanija v avarskom jazyke*. Makhachkala: Daguchpedgiz.